

SG350XGおよびSG550XGスイッチでのIPv4管理インターフェイスの設定

目的

IPv4管理インターフェイスの設定は、スイッチのIPアドレスの管理に役立ちます。IPアドレスは、ポート、リンク集約グループ(LAG)、仮想ローカルエリアネットワーク(VLAN)、アウトオブバンド(OOB)、またはループバックインターフェイスに設定できます。

Webベースのユーティリティまたはコマンドラインインターフェイス(CLI)を使用してSG350XGまたはSG550XGスイッチを管理するには、スイッチのOOBポートでIPv4デバイス管理IPアドレスを定義する必要があります。デバイスのIPアドレスは、手動で設定することも、DHCPサーバから自動的に受信することもできます。

この記事では、Webベースのユーティリティを使用して、スイッチのIPv4管理インターフェイス(OOB)を手動で設定する方法について説明します。

このドキュメントの用語に慣れていない場合は、[Cisco Business:新用語一覧](#)。

注：CLIを使用してスイッチのIPv4管理インターフェイスを設定する方法については、[ここをクリックしてください](#)。

該当するデバイス | ソフトウェアバージョン

- SG350Xシリーズ | 2.3.0.130 (最新の[ダウンロード](#))
- Sx550Xシリーズ | 2.3.0.130 (最新の[ダウンロード](#))

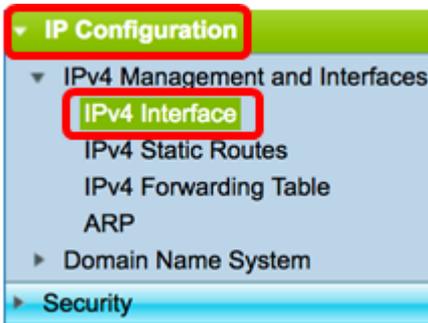
IPv4管理インターフェイスの設定

重要：スイッチがスタックモードでスタンバイスイッチが存在する場合、スタックアクティブスイッチオーバー中にネットワークから切断されないように、IPアドレスをスタティックアドレスとして設定することを推奨します。これは、スタンバイスイッチがスタックの制御を行う場合、DHCPを使用すると、スタック上の元のアクティブ対応ユニットが受信したIPアドレスとは異なるIPアドレスを受信する可能性があるためです。

OOBインターフェイスでのIPv4アドレスの設定

ステップ1：スイッチのWebベースのユーティリティにログインし、[IP Configuration] > [IPv4 Management and Interfaces] > [IPv4 Interface]を選択します。

注：使用できるメニューオプションは、デバイスのモデルによって異なります。この例では、SG550XG-8F8Tが使用されています。



[IPv4 Interface]ページの[IPv4 Interface Table]には、次の情報が含まれています。

- インターフェイス：IPアドレスが定義されているユニットまたはインターフェイス。ループバックインターフェイスの場合もあります。
- [IP Address Type]：使用可能なオプションは次のとおりです。

- DHCP:Dynamic Host Configuration Protocol(DHCP)サーバから受信。

- Static：手動で入力します。スタティックインターフェイスは、ユーザによって作成される非DHCPインターフェイスです。

- Default：デフォルトでデバイスに存在するデフォルトアドレス。設定が行われる前のアドレス。

- IP Address：インターフェイスに設定されたIPアドレス。
- Mask：設定されたIPアドレスマスク。
- Status:IPアドレスの重複チェックの結果。

- Temporary — IPアドレス重複チェックの最終結果はありません。

- Valid — IPアドレスの衝突チェックが完了し、IPアドレスの衝突は検出されませんでした。

- Valid-Duplicated:IPアドレスの重複チェックが完了し、重複するIPアドレスが検出されました。

- Duplicated：デフォルトのIPアドレスに重複するIPアドレスが検出されました。

- Delayed:DHCPクライアントが起動時に有効になっている場合、DHCPアドレスを検出する時間を与えるために、IPアドレスの割り当てが60秒間遅延されます。

- Not Received:DHCPアドレスだけに関連します。DHCPクライアントは、検出プロセスを開始すると、実際のアドレスを取得する前に、ダミーのIPアドレス0.0.0.0を割り当てます。このダミーアドレスのステータスはNot Receivedです。

注：この例では、IPv4インターフェイステーブルに、DHCPによって割り当てられたIPアドレスが192.168.100.134で、サブネットマスクが255.255.255.0のOOBインターフェイスのエントリが含まれています。

IPv4 Interface Table					
<input type="checkbox"/>	Interface	IP Address Type	IP Address	Mask	Status
<input type="checkbox"/>	OOB	DHCP	192.168.100.134	255.255.255.0	Valid

ステップ2:[Add]をクリックして、スタティックIPアドレスを手動で割り当てます。

IPv4 Interface Table					
<input type="checkbox"/>	Interface	IP Address Type	IP Address	Mask	Status
<input type="checkbox"/>	OOB	DHCP	192.168.100.134	255.255.255.0	Valid
<input type="button" value="Add..."/> <input type="button" value="Edit..."/> <input type="button" value="Delete"/>					

注：[Edit]ボタンを使用すると、OOBポートにスタティックIPアドレスを手動で設定することはできません。

ステップ3:[Interface (インターフェイス)]領域で、[Out of Band (アウトオブバンド)]をクリックします。

Interface: Unit Port XG1 LAG 1 VLAN 1 Loopback Out of Band

ステップ4:[IP Address Type]領域から[Static IP Address]をクリックします。

IP Address Type: Dynamic IP Address
 Static IP Address

ステップ5:[IP Address]フィールドにOOBインターフェイスのIPアドレスを入力します。

IP Address:

注：この例では、192.168.100.2がOOBポートの新しいIPアドレスとして使用されています。

ステップ6:[Mask]領域のオプションボタンをクリックし、対応するサブネットマスクを入力します。次のオプションがあります。

- [Network Mask]：このアドレスのIPマスク。
- Prefix Length:IPv4プレフィックスの長さ。

Mask: Network Mask Prefix Length (Range: 8 - 30)

注：この例では、[Prefix Length]を選択し、対応するフィールドに24を入力します。このフィールドも255.255.255.0ネットワークマスクに変換されます。

ステップ7:[Apply]をクリックし、[Close]をクリックします。

192.168.100.134/csf89ead40/ipaddr/system_ipconf_ipinterface_a.htm

Interface: Unit Port LAG VLAN Loopback Out of Band

IP Address Type: Dynamic IP Address
 Static IP Address

IP Address: 192.168.100.2

Mask: Network Mask 255.255.255.0
 Prefix Length 24 (Range: 8 - 30)

Apply Close

Waiting for 192.168.100.134...

セッションは自動的に閉じられ、スイッチへの接続は失われます。これは、新しい管理IPアドレスがOOBポートに適用されるためです。

これで、スイッチのIPv4管理インターフェイスアドレスが正しく設定されたはずで

IPv4管理インターフェイスへのアクセス

ステップ1：インターフェイスのWebベースユーティリティにアクセスするには、WebブラウザでIPアドレスを入力します。この例では、192.168.100.2と入力します。

Not Secure 192.168.100.2/csf89ead40/config/log_off_page.htm

Switch
CISCO

Application: Switch Management

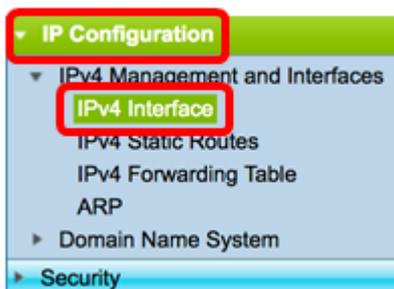
Username: cisco

Password: *****

Language: English

Log In Secure Browsing (HTTPS)

ステップ2：スイッチのWebベースのユーティリティにログインし、[IP Configuration] > [IPv4 Management and Interfaces] > [IPv4 Interface]を選択します。



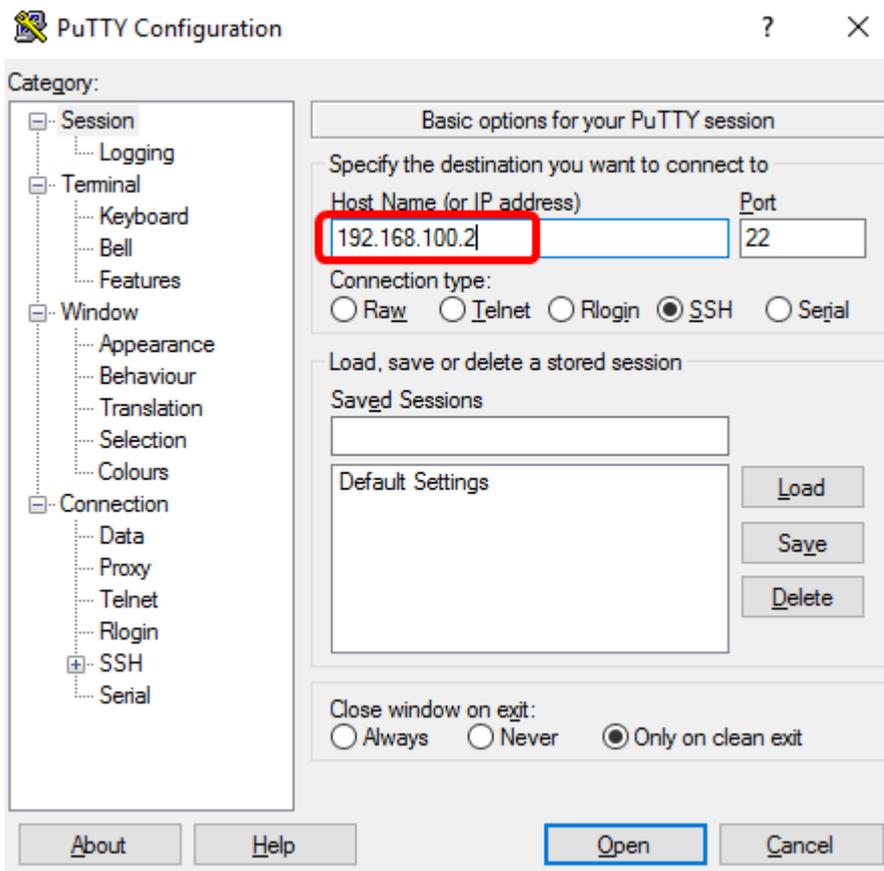
IPv4インターフェイステーブルには、OOBの更新されたIPアドレスが表示され、IPアドレスタイプとして[Static]が表示されます。

ステップ3: (オプション) [Save]をクリックし、設定をスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存します。



ステップ4: (オプション) 設定したスイッチインターフェイスのCLIにアクセスするには、使用しているクライアントのIPアドレスを入力します。この例では、PuTTYが使用されています。

注 : コンピュータがスイッチインターフェイスと同じVLANに接続されていることを確認します。この例では、192.168.100.2と入力します。



スイッチのCLIにアクセスできる必要があります。

```
192.168.100.2 - PuTTY
login as: cisco

User Name:cisco
Password:*****

SG550XG-16P#
```

これで、IPv4管理インターフェイスアドレスを使用して、スイッチのWebベースのユーティリティまたはCLIに正常にアクセスできました。

この記事に関連するビデオを表示...

[シスコのその他のテクニカルトークを表示するには、ここをクリックしてください](#)